

〔西鶴織留〕^五一日暮しの中宿

はたらきさへいたせば、お氣に入事ぞと出尻あらしたる跡にて見れば、^略○中 十枚の挽盆を一枚もそのまゝは置ず、

〔渡世身持談義〕世盛の花嫁御寢覺の心安い貧家の祝言

祝言の夜も朽木盆に盃載て、清水焼の皿に飛魚引裂入て、ちろりに小半入れて、千代の結びの盃
事、○下 略

〔茶道筌蹄〕^五通盆

黒 利休形丸

一閑張 元伯好なり

杉の木地 利休形鏡へギ目

湯盆

黒角きらず 利休形

溜 長角、カンナ目、皮トジ、疊付黒、仙叟好、

一閑張 長角、溜塗、疊付黒、原叟好、

黒丸 元伯好、今千家に用ゆ、^{一書には不用とあり}

菓子盆之部

一閑張 菱は如心齋好、角、溜塗、疊付黒は原叟好、

雜器 ナデ角黒、如心齋好なり、

總菓子盆

一閑四方 へギ目あるは元伯好、へギ目なきは宗全好、